

Characteristics, Outcomes, and Risk Factors for Upper Gastrointestinal Bleeding in Inpatients - A Comparison with Outpatients

メタデータ	言語: en 出版者: 公開日: 2023-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小林, 亜也子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00033459

主論文の要旨

Characteristics, Outcomes, and Risk Factors for Upper Gastrointestinal Bleeding in Inpatients - A Comparison with Outpatients

(入院中に発症した上部消化管出血の臨床的特徴、予後、リスク因子について)

東京女子医科大学消化器内科学教室

(指導：徳重克年 教授)

小林 亜也子

Internal Medicine 2022 Oct 5. doi:10.2169/internalmedicine.0614-22.

に掲載

【要 旨】

他疾患で入院中の上部消化管出血例は院外発症例と比較し報告が少ない。入院中に上部消化管出血を発症した入院発症群と院外で出血した外来発症群、計375症例を対象とし比較検討した。入院発症群は、外来発症群より栄養状態が悪く、Proton pump inhibitor (PPI)、抗凝固薬、ステロイドの使用率が有意に高率であった。再出血率、院内死亡率、出血関連死亡率も高率であった。多変量解析で、再出血リスクは Forrest 分類 I 及び II a、維持透析、十二指腸出血、死亡リスクは Charlson-comorbidity index update score 3 以上と胃潰瘍であった。入院中の上部消化管出血は栄養状態・併用薬剤・併存疾患などが影響し、PPI の予防効果も低く、予後不良で個々の病態に応じた対策が必要である。